

## 東日本大震災復興検証事業の概要

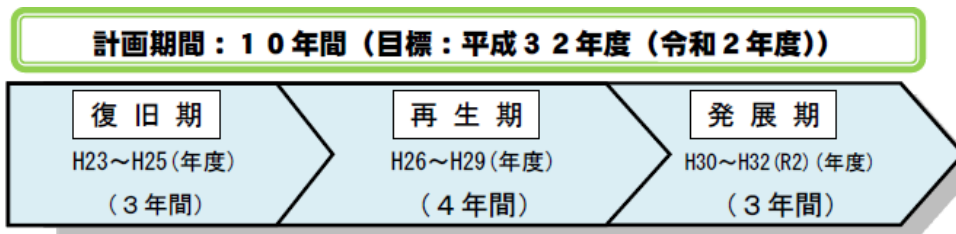
### 1 本事業の趣旨及び位置づけ

「東日本大震災復興検証事業」は、東日本大震災からの復旧・復興過程で得られた職員等の経験や教訓などを次代に伝承していくとともに、今後発生が予想される様々な災害対応等において、本県職員のみならず、広く活かしてもらうことを目的とする。

そのため、本事業を進めるに当たっては、当時の担当として直接関わった職員等だけではなく、現在の担当者も含め、全職員が使命感を持って関わっていくことが望ましい。また、とりわけ震災後に入庁した職員については、本事業に積極的に関わらせることで、効率的に学びを提供することを期待して、本事業を実施する。

### 2 検証事業の実施方法

発災から10年間を対象期間として、各テーマ（全62テーマ※資料1-3参照）におけるフェーズ毎の当時の担当職員（退職者を含む各階層）にインタビュー調査を実施することにより検証を行う。各テーマ複数回実施することで、10年分の対応内容を網羅的に収集し、報告書等へまとめる。



### 3 職員インタビューの実施方法（1回あたり約2時間程度）

- ・インタビュー対象者：当時対応した職員 3～6名程度を想定
- ・インタビュー聴講者：定員10名程度

（聴講者は、現在の担当職員のほか、掲示板で広く公募※）

※先輩職員から後輩職員へ、直接伝える（学ぶ）機会とする。

**報告書の校正、映像の編集にあたり、事実確認や内容チェックは現担当課に担っていただくため、現担当課の現担当者を中心としたメンバーに聴講に来ていただくよう依頼している。**



## 4 東日本大震災復興検証事業（職員インタビュー実施）による成果物

### 幹部職員の証言集

目的：震災からの復旧・復興にあたり、政策決定の過程を記録する。  
内容：震災当時の副知事及び部長クラス計12名にインタビューを実施し、その証言内容を時系列にまとめたもの。  
読み手：宮城県及び他自治体の幹部職員  
サイズ等：A5, モノクロ, 260~300ページ程度

一般職員へのインタビューでは網羅されない要素（トップダウンで進んだ政策やその意志決定過程等）については、幹部職員の証言集で補完する

### ポータルサイト

ポータルサイトに完成したテーマから順次公開中。

### 職員インタビューの報告書

目的：テーマ毎に、政策に基づく実施状況を記録する。  
内容：職員インタビューの証言内容をテーマ毎にまとめたもの（計62テーマ）  
読み手：宮城県及び他自治体の一般職員  
サイズ等：A4, カラー, 500ページ程度

### ダイジェスト映像

目的：報告書の内容を補完する  
内容：職員インタビューのダイジェスト映像（計150本程度）  
視聴者：宮城県及び他自治体の一般職員  
尺：各インタビューつき15~20分程度

※その他、各テーマに関連する、既存の記録誌、マニュアル、計画等の資料をポータルサイト内に集約する。  
<https://www.pref.miyagi.jp/site/densho//>

## 5 これまでの実績

### (1) 令和元年度

- ・取り組んだテーマ数：延べ17テーマ
- ・職員インタビューの実施件数：57回（実施期間 R1.8.22~R1.12.26）
- ・インタビュー話し手の数：228名（聴講者：124名）

### (2) 令和2年度

- ・取り組んだテーマ数：延べ20テーマ
- ・職員インタビューの実施件数：30回（実施期間：R2.9.15~R3.3.18）
- ・インタビュー話し手の数：117名（聴講者：249名）

### (3) 令和3年度

- ・取り組んだテーマ数：延べ31テーマ
- ・職員インタビューの実施件数：56回（実施期間：R3.4.20~R3.2.16）
- ・インタビュー話し手の数：206名（聴講者：254名）

### (4) 令和4年度

- ・取り組む予定のテーマ数：延べ8テーマ
- ・職員インタビュー実施予定件数：10回程度
- ・インタビュー対象者数：未定

## 6 各部署に御協力いただきたい内容

- ① 必要に応じて、取組や制度変更等に関する資料提供等
- ② インタビューの聴講者募集に際し、関連する課室への働きかけ
- ③ 報告書の原稿案及び映像の内容確認（話し手への内容確認は別途復興支援・伝承課で実施）  
（第一校、第二校、最終稿の3回の確認を予定）
- ④ 幹部職員の証言集の内容確認